

第五次美浜町総合振興計画を策定しました

町では、平成28年度から10年間のまちづくり指針「第五次美浜町総合振興計画」を策定しました。今月号では、本計画の概要や計画策定までの検討内容等についてお知らせします。

※本計画の基本理念や将来像、施策内容等については、来月号でお知らせします。

美浜町総合振興計画とは

美浜町の今後10年間のまちづくりにおける最上位計画で、町の特性や課題、社会情勢等を踏まえ、美浜町の目指す将来像やまちづくり方針、またその実現のための具体的な手段をまとめたものです。

町では、計画に基づき、さまざまな分野で施策を進めていきます。

計画策定の背景

町では、平成18年度から27年度にかけて「第四次美浜町総合振興計画」に基づき、各種施策を計画的に進めてきました。

しかし、現在、少子高齢化や人口減少、地球温暖化の進行等、本町を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、さまざまな分野において大き

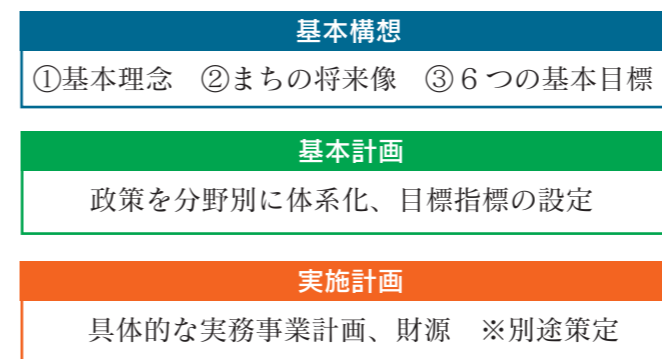
な転換期を迎えています。こうした状況に対応し、住民と行政がそれぞれの役割と責任により、相互に連携・協働しながらまちづくりに取り組んでいくため、まちづくりの基本的な方向性を「第五次美浜町総合振興計画」として取りまとめました。

計画の構成・期間

本計画は、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。

「基本構想」は、町の将来像やまちづくりの基本的な方向性を示すもので、10年を計画期間としています。「基本計画」は、基本構想を実現するための政策を分野別に示すもので、前期と後期5年ごとに見直します。

計画の構成



「実施計画」は、基本計画に基づく具体的な事務事業を示し、予算編成の指針とするもので、3年を計画期間として毎年見直します。

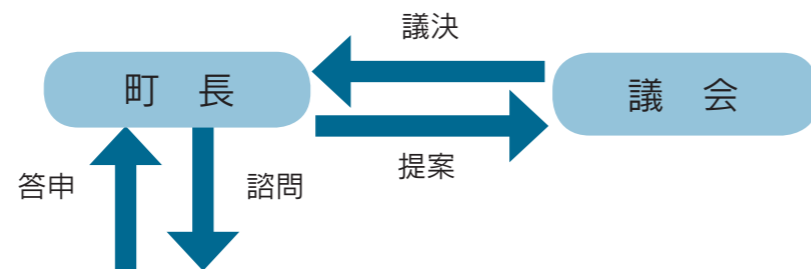
計画の期間

(年度)									
H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
基本構想 ■ 10年間 (平成28年度～平成37年度)									
基本計画(前期) ■ 5年間 (平成28年度～平成32年度)					基本計画(後期) ■ 5年間 (平成33年度～平成37年度)				
実施計画 ■ 3年間 (毎年見直し)									

策 定 体 制 図

振興計画の策定にあたっては、町議会議員や各種団体等の代表者で構成される審議会をはじめ、副町長を委員長として総合的な調整を行う策定委員会、まちづくりに積極的な町民で構成したはあとふる37(※)、職員で構成した専門部会等、多くの町民の意見を取り入れ、検討を行ってきました。

※平成37年度を目標年度とすることから命名。



審議会

学識経験者や町議会議員、各種団体の代表で構成。

町長からの諮問に応じ、総合計画に関する事項について、調査、審議し、結果を町長に答申しました。



策定委員会

副町長・教育長、各課(局・室)長、会計管理者で構成。策定にかかる総合的な調整を行いました。

検討組織

はあとふる37

まちづくりに興味・関心を持つ町民等で構成。基礎調査の内容を踏まえ、地域資源の掘り起こしや町政について、自由に議論し、問題提起や提言等を行いました。

専門部会

課長補佐級、主査級、主事級で構成。はあとふる37委員とともに議論を行い、計画の原案を作成しました。



基礎調査(町の特性や課題を調査)※4頁参照

課題 (今後のまちづくりに必要なこと)

①産業の振興と雇用の場の確保

- 町内での地域間交流や近隣市町等との交流を深めながら、農林水産業、商工業、観光業の連携のとれた産業振興
- 町の知名度向上や交流人口の増加のため、まちの活力や魅力の向上
- 町の魅力発信やビジネスとして魅力のある産業の育成
- 農林水産業等の担い手を育成・確保し生産体制を維持
- 産学官連携による6次産業化や付加価値の高い農林水産業等が生業として成り立つ仕掛けを行う
- 新たな企業誘致により、地域の雇用の場を確保する
- 誇りをもって取り組める魅力ある仕事を創出
- 観光振興策として、自然、歴史、文化等の地域資源を活用
- どのような人をターゲットに何をPRしていくのかを明確にしたビジョン



農業体験



山上産業団地

②定住対策と空き家対策の推進

- 若者や定年後の世代、子育て世代等に対し積極的な定住促進策を行う
- 地域の実情に沿った空き家対策をはじめとした住環境の整備

③安全・安心なまちづくりの推進

- 異常気象に伴う自然災害や震災等、万が一への備えを今後も継続して実施
- 子どもからお年寄りの幅広い年齢層が、安心して暮らせるまちづくりを進めていく
- 自主防災組織の推進等による防災体制の強化や、子どもや高齢者等の安全確保
- 豊かな自然環境を有する町として、環境負荷の少ない循環型社会の形成に積極的に取り組む
- 広域的な連携も踏まえた医療体制の充実
- 就労形態の多様化に伴い、子育て中の労働等のニーズに対応した支援
- 安心して子どもを産み育てられる環境づくり



自主防災組織による訓練



環境美化活動

④美浜町への愛着度を高める

- 恵まれた自然環境や歴史、地域のために働く人々の活動に対して理解を深めることで、美浜の自然を誇りに思い、「美浜大好き人間」を形成
- 教育の充実と文化の振興のさらなる推進により、地域への愛着を育む取り組み



ファツィオリ社製 F308

⑤協働・連携したまちづくりの必要性

- 地区公民館等における地域コミュニティ拠点の確立や仕組みづくりを構築
- 自立したまちづくりを進めるために、町民と職員が知恵を出し合い、地域の課題を自ら解決していくことの重要性を共有
- 町単独では解決できない大きな問題を対処する上で、サービスの均一化や効率化といった広域行政の円滑な推進

⑥豊かな人間性と社会性を育む教育の更なる充実

- 児童・生徒には、基本的な知識・技能の習得を図ることや、さまざまな課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等、主体的に学習に取り組む態度を養うよう指導の充実
- 今後も社会情勢の変化への柔軟な対応とともに、児童生徒等が生涯にわたり学習できる基盤
- 学ぶ意欲とともに、自ら課題を見つけ、学び、解決する(アクティブ・ラーニング)資質や能力を育成する教育の充実
- インターネットによる人権侵害やいじめ、児童虐待等、それぞれの人権問題についての認識を深め、差別をなくす態度の育成
- 人と人との関係を豊かに結ぶことができる「人づくり社会づくり」



エネルギー教室

基礎調査では、町民や町職員を対象としたアンケートや、町内で活動する団体への意向調査を実施し、町の各分野に対する満足度、今後のまちづくりにおける優先分野等を調査しました。

また、福井大学生や若狭医療福祉専門学校、10年前に実施した「美浜町子ども議会」の参加者を対象に、本町のイメージや今後のまちづくりについて意見交換を行いました。

その他、パブリックコメントやまちづくりに関する中学生の作文・小学生の絵画の募集等を行いました。

基礎調査の結果から、各種分野においてさまざまな課題が浮き彫りとなりました。それぞれの内容は次のとおりです。

基礎調査結果のまとめ

町民アンケート

- 防災に関するニーズが大きく、雇用対策として働く場の確保が強く求められています。
- 町への愛着度や住みやすさ等も高いとはいえない結果となりました。
- 優先度の高い項目には、「雇用対策」「防災対策」「土地利用」が挙がりました。また、充実している項目は「生涯スポーツ」「上下水道整備」「文化の伝承・創造」でした。

各種団体等意向調査

- 本町で活動をしているさまざまな団体に対し、各団体の現状と課題、活動内容、今後のまちづくりに取り組む上で重要な視点等について意向調査を行いました。
- 「人口減少」「空き家」「雇用対策」「若者」「定住」「子育てしやすい環境」といったキーワードが多く見られました。

町職員アンケート

- 今後のまちづくりの方向性として、「健康福祉のまち」が最も多く、次いで「快適住環境のまち」となりました。本町の特性である自然や環境に関連する「環境保全のまち」は第4位となっています。
- 特に力を入れるべきことは、「若者の定住促進のための施策」で、第2位は「就労場の振興」でした。

まちづくりサマー会議(座談会)

- 美浜暮らしを人に勧める場合を想定した「美浜暮らし〇か条」をテーマにしたところ、本町の自然の豊かさ、食べ物のおいしさを体験してほしいという意見が多く見られました。
- また、体験型観光で本町を訪れてもらい、リピーターを増やそうという意見もありました。



まちづくりサマー会議(座談会)

中学生アンケート

- 「自然や環境を大切にすまち」を望む声や「自然を守る活動に参加してみたい」という回答が多く見られました。
- 今後の定住意向については、「住みたい」「どちらかといえば住みたい」といった地元志向が強い傾向にあるが、進学や就職の際には地元を離れざるを得ないといった様子が見られました。

大学生等との意見交換

- 本町のイメージとして、自然が豊かであることが一番に挙がりました。
- 「卒業後は地元に戻りたいと言う友人が多い」「Uターン率が低いのは、地元でやりたい仕事の就職先がないからではないか」「将来住むなら一軒家に住みたい」等の意見がありました。
- 「やりたい仕事の就職先がない」という意見は、雇用の充実や確保といった町民アンケートにも出てくるキーワードでした。



福井大学生との意見交換



若狭医療福祉専門学校学生との意見交換

各部会でリーダーを務められた皆さんにインタビューしました



総務部会
田辺 文宏 さん

美浜町出身の立場から見て、美浜町には豊かな自然や住みやすさ等、自慢できる資源がたくさんあります。町民一人ひとりが町の魅力をPRし、「住んでみたい」「訪れてみたい」と思える町にしていきたいことが必要だと思います。



くらし・環境部会
北山 大志郎 さん

まちづくりは、長期的に取り組まないと成果が出ず、また、自主性が無いと長続きしません。今後は、第四次美浜町総合振興計画での取り組みを受け継ぐとともに、より多くの町民を巻き込んでいくことが重要だと思います。



福祉・健康部会
宮下 直 さん

これからのまちづくりには、地域福祉の向上が欠かせません。社会から孤立した人や社会的弱者を含め、町民一人ひとりが支え合うことのできる地域づくりが必要です。今後も町民ニーズを的確に捉え、本計画で位置づけた目標を実践し、安心して暮らせるまちづくりを期待します。



産業部会
田邊 義郎 さん

まちづくりにおいては、観光、農林漁業、商工業等のさまざまな分野が連携した「人づくり」が必要だと思います。会議では、若い委員から多くの意見が出たことに心強さを感じました。今後は、若者の活躍の場が更に増えることを期待します。



教育・文化部会
田邊 一裕 さん

子どもたちが地域と関わる機会が減っている現状があります。小さい頃から地域の中で役割を与え、活躍できる場を作ることが、地域への参画を促すきっかけになると思います。今後は、本計画について町民が理解し、自分にできることを考え、まちづくりに積極的に参画してもらいたいと思います。

はあとふる37及び専門部会は、基礎調査で得た詳細な町の課題を基に、計画の具体的な検討を行いました。会議では、「総務部会」「くらし・環境部会」「福祉・健康部会」「産業部会」「教育・文化部会」の5つの部会に分かれ、各分野ごとの課題について、活発な議論を行うとともに、地域資源の掘り起こしや町政に対する問題提起、提言等を行いました。各部会で検討した内容は、策定委員会で調整した後、審議会が計画原案として取りまとめ、平成27年11月30日に山口町長へ答申。そして、平成27年12月18日の町議会で議決され「第五次美浜町総合振興計画」は策定されました。

検討組織



総務部会

主な提案

- ・地域コミュニティの仕組みづくり
- ・地域の課題を自ら解決する、自立したまちづくり
- ・行政サービスの充実を図るため、広域行政の推進
- ・自主防災組織の更なる推進



くらし・環境部会

主な提案

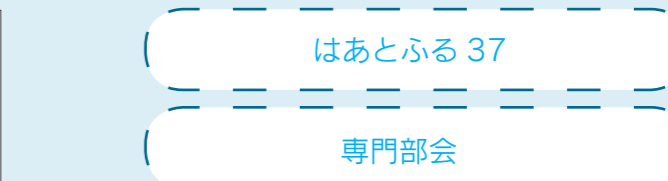
- ・若者や子育て世代等の定住の確保
- ・地域の実情に沿った空き家対策
- ・環境負荷の少ない循環型社会の実現



教育・文化部会

主な提案

- ・自ら課題を見つけ、学び、解決する能力の育成
- ・人権問題についての認識、差別をなくす意識の育成
- ・地域の愛着を育む取り組みが必要



福祉・健康部会

主な提案

- ・広域的な連携を踏まえた医療体制、機能の維持、充実
- ・安心して子どもを産み、育てられる環境づくり
- ・地域住民の助け合い意識の醸成
- ・げんげん運動への長期的な取り組み



産業部会

主な提案

- ・企業誘致による雇用の場の確保
- ・地域資源を活用し、ターゲットを明らかにした観光振興
- ・農林水産業、商工業、観光業の連携のとれた産業振興

本計画は、基礎調査による町の課題の洗い出しと、各会議で多くの町民の皆さんの参画を得ながら策定されました。来月号では、本計画を構成する基本構想・基本計画について詳しくお知らせします。

※お問い合わせ先

町企画政策課（担当・山本知也）

☎ 32-6701